



NIJINOWA STORY 1

こだわりのインテリアたちに迎えられる幸せ

左・手書きの番号札が懐かしい下駄箱は、なんと大正時代に作られたもの
 中央・手洗いボウルは味のある金物の洗面器を利用。レトロなスタンドもナイス
 右・大胆なグリーンの色使いが古い階段とよく合っている

「みんなが集うリビングは自分の部屋にいるよりずっと心地いい」



住人たちの自転車が並ぶ玄関。駅までの距離も、自転車があれば苦にならない



下 町らしい住居が建ち並ぶ住宅街の一角にたたずむ、古びたタイル貼りの建物。1階にある地味な扉が、この夏オープンしたばかりの「ニジノワムラ浅草」の玄関だ。扉を開くとまず目に飛び込んでくるのが、昔、銭湯に置いてあった木の下駄箱。鮮やかなグリーンに塗られた階段を上りきると、外観からは想像できない、広々としたリビングダイニングが広がる。中2階のある天井、パーカウスター、アンティーク風家具、あちこちに置かれた小物

……。おもちゃ箱のようなにぎやかさがあふれながら、絶妙なセンスでまとめられたリビングダイニングは、まるでおしゃれなカフェのようだ。ここに住むのは5名の若者たち。取材におじゃました土曜の午後は、4名の住人とその友人、そしてオーナーの立花佳奈子さんがリビングで思い思いにくつろいでいた。キッチンで手際よくランチを作っていたのは、はるみさん。立花さんの友人で、この改装作業を何度も手伝ってきたという。

味のある家具が置かれた広いリビングは、ニジノワムラのもっとも重要な場所。隣接したデッキテラスから降り注ぐ光が心地よく、何とはなしに住人たちが集まってくる



NIJINOWA MURA ASAKUSA

懐かしくて新しい
「ムラ」へようこそ

シェアハウスに住み、その楽しさに目覚めた会社員の女性が、やりたいことをすべて詰め込んでつくった夢のシェアハウス「ニジノワムラ浅草」。その魅力を徹底紹介！

text_Takako Yoshida photograph_Taro Isshiki



上・1週間前に引っ越して来たばかりというのが信じられないほどすっきりとしている、野田さんの部屋
下・ディスプレイした帽子がおしゃれな中野さんの部屋。洗面台付きの部屋は女子だけでなく男子もうれしい

NIJINOWA MURA ASAKUSA

「この前は、パウハウス高円寺、というシェアハウスに半年ほど住んでいました。ここには住むつもりはなかったんですけど、手伝っているうちに住みたくなっちゃって(笑)」

中野さんとますみさんも、別のシェアハウスから移り住んできた。1ヶ月前に越してきた中野さんは、「前のシェアハウスの前は海外に行っていて、その前もやっぱりシェアハウス(笑)。一人暮らしをしていたこともあれば、シェアだと毎日帰ってくるのが楽しみだし、こんなに広いリビングは一人では絶対に持てない。同じ家賃でもずっとせいたくに暮らせると思います」と話す。3日前に越してきたばかりのますみさんは、「12年間一人暮らしをしてきて、だんだん飽きてきていたのもあったし、友人がシェアをしているのを見て楽しそうだなとも思っていました。それで物件を探しているうちに、シェアハウス専門の検索サイト、ひつじ不動産。にたどり着き、とあるシェアハウスに住み始めました。でも引越した後、この写真を見て一目惚れ、すぐに移ってきたくてです」

一方、今回が初めてのシェアという野田さんは、越してまだ1週間。「僕も10年間一人暮らしをしていました。引っ越し先を探している中で、家賃と通勤時間を考えたら、シェアハウスもいんじゃないかと。最初からシェアで暮らしたい、と思っていたのではなく、物理的な条件を考えたらここになった、という感じですが、ここでの暮らしは本当に気に入っています」

「この日、休日出勤していたため取材に参加できなかった女性を含め、5名の住人は全員が、ニジノワムラで初めて出会って共に暮らし始めた。しかし、知り合ってからまだ間もないとは思えないほど、みんな和気あいあいとしていて楽しそう。たまたま遊びにきていた、はるみさんの友人、やまとさんも、まるで住人のひとりのようにとけ込んでいる。」

「ここは本当に居心地がいいんですよ。気兼ねなくくつろいでます。いや、たまには気を遣いますけど(笑)。みんな部屋にこもらず、なんとなくリビングにいるのがいいですね。マンガを読むにしても、部屋じゃなくてリビングで読んでいたり」とニジノワムラがすっかり気に入っているようだ。

こんな素敵な空間を持つシェアハウスを運営しているのが、立花佳奈子さん。自身がシェアハウスで暮らすうちにその楽しさに目覚め、自分でシェアハウスをつくってしまっただけという驚きの行動力の持ち主だ。

「もともと旅が好きで、海外でよくツーリスト向けの安いゲストハウスに泊まったり、バイクで回った北海道でライダーズハウスを転々としていた。将来こういう宿をやりたいなあ」と思ったんです。それでゲストハウスについて調べているうちに、短期滞在ではなく、住むための、シェアハウス、というものがあると知り、見つけたのが、パウハウス南千住。でした」

ひとつ屋根の下が楽しい



リビングのあちこちで発見できる、こだわりの小物たち。上から、味のある木桶に収まったスイッチパネル、オークションで競り落としたアンティーク調のランプ、病院で使われていた真鍮のドアノブ、インディアンテイストな牛型フック



「たくさんの友人たちの協力があってからこそ完成した、手づくりの空間」

NIJINOWA STORY 2
ニジノワムラのシンボル、巨大壁画



上・個室に向かう通路の壁には、巨大な虹とキノコの絵。奥には洗面台が設置されている
下・この絵は立花さんが住む「パウハウス南千住」の住人と立花さんの合作 ©nijinowamura



上・天井をぶちぬいて造った屋根裏スペース。ガラスの扉からベランダに出ることができる
下・一枚板を使ったカウンター。キッチン内に立てば、たちまちバーテンダー気分だ



「いちばん大変だったのは、時間のやりくりと体力。平日は会社で働き、休日はすべてこの改築に充てました。壁や床を塗ったり、家具を運び込んだり。毎回筋肉痛になりましたね。あとは友人たちに協力してもらったのは心強かった。みんな休日を返して協力してくれました」

人と人をもっとつなげたい

最終的にここに決めた。資金は自分でこつこつ貯めた貯金のみ。設計と施工を全面的にサポートしてくれた大関さんには、費用をなるべく抑えるべく、自分でできる部分は自分でやります、と宣言した。その一方で、中2階を造りたい、ハンモックを吊りたい、デッキテラスを造りたい、といった。やりたいこと。は、イメージ写真を添えて大関さんに伝え、すべて盛り込んでもらった。

床も壁もボロボロになっていた廃屋同然の住まいは、こうしてわずか4ヶ月で立派なシェアハウスに生まれ変わった。しかし、実現したかったことをすべて盛り込んだ、この理想のシェアハウスに、なぜか立花さん自身は住んでいない。

「私はパウハウスも気に入っているし、そこで知り合った人もたくさんいるので、今もそこに住んでいます。パウハウスは、南千住と高円寺の2つの場所にあって、お互い招待し合うパーティなどを催して交流を楽しんでいる。そんなふうに、私がニジノワムラと他のシェアハウスの架け橋になればと思っています」

今後は、週末にバーを開店する計画もあるという。住人たちのくつろぎの場から、住人以外の人とも交流できる場へ。ニジノワムラが生み出す、つながりの輪は、これからどんどん広がっていくことだろう。

NIJINOWA STORY 4
家づくりって大変だけど楽しい!

慣れないドリルを使ってのデッキテラスの板張り作業はパウハウス南千住の住人と、立花さんの職場の同僚を総動員。みんな休日返上で手伝ってくれた ©nijinowamura



左・水タバコのパイプにマトリョーシカ。リビングは旅好きの立花さんが集めた世界各地の小物がいっぱい 右・カウンターの白樺の支柱は大関さんが山から拾ってきたもの

「わくわくする住まいにしたいくて、好きなものをすべて集めた」

大関商品研究所が手がけるパウハウスは、昭和の雰囲気を残したレトロなインテリアが人気のリノベーション・シェアハウス。写真を見て一目惚れし、さっそく入居した立花さんは、そこに暮らす個性あふれる住人や、運営をしている代表の大関耕治さんと出会ったことで、自分でもシェアハウスをつくりたい、と思うようになった。

「ムラ」をつくりたい

「実は、将来、宿をやりたい、という夢と同時に、ムラをつくりたい、という考えも持っていたんです。実家が四国で有機栽培の兼業農家をしているんですが、土に触れて育った背景があるからか、いつか自分たちで自給自足的な共同生活をしたいなと思うようになって。そこで湧いてきたコンセプトが「ムラ」でした。楽しみながら共同生活でき、人がたくさん訪ねてきてくれるような場所がつけられたらと思っていたんです」

そんな構想を大関さんに話したところ、大関さんも「自分もムラをつくりたいと思っていた」と賛同。かくして立花さんは、パウハウスに住んで1年も経たないうちに、シェアハウス向けの物件探しをスタートさせた。求める条件は、個室が5室は確保できること、広いリビングがあり、バーカウンターが設置できること。ニジノワムラは、不動産屋から紹介されて初めて見に来た物件だった。駅から17分と遠いのが気に入ったが、間取りの面白さと安さ



NIJINOWA STORY 3
プロの仕事と自分たちができることのバランスを考えた

できることは自分でやって費用を抑え、ビジュアル的にインパクトがあるリビングはプロの手にまかせた。カラフルな個室の扉は、立花さんと友人たちが塗装を担当



物件名 ニジノワムラ
運営 ニジノワムラ
www.nijinowamura.com
個室 5室
共用設備 バスルーム、キッチン、洋式トイレ、洗面台、洗濯機
ウッドデッキテラス、屋根裏スペース
設計・施工 大関商品研究所
☎ 03-3431-7810 www.ozeki.co.jp
問い合わせ オシャレオモテロク
ひつじ不動産 www.hitujij.com



リビングと同じぐらい重要な場所が、このデッキテラス。晴れた日にはヨガ好きなはるみさん(左端)がここで他の住人たちにヨガを教えることも